

➡ いきがい交流センターしみず 令和4年度 事業報告 ➡

◇概要 要◇

- 設置主体 松山市
- 運営主体 松山市社会福祉協議会
- 協力団体 清水地区社会福祉協議会、清水地区民生児童委員協議会
- 目的 小学校の余裕教室等を活用し、高齢者に対し社会的孤立感の解消および心身機能の維持向上を図るための地域交流事業や講座等を実施し、高齢者福祉の向上に資する。
また、福祉、教育関係機関等との連携を図り、松山市民、特に清水地区を中心とした城北エリアに居住、活動する人々の主体的運営による福祉・文化・レクリエーション等の学習及び相互扶助実践を通して、福祉・学習コミュニティの形成と融合推進の地域福祉拠点とする。

◇事業内容◇

地域交流事業「友遊しみず」

本来であれば、高齢者が週2回、創作活動等を通して生きがいづくりや仲間づくりの輪を広げ、また、脳トレゲームや体操、健康講座等により心身機能の維持向上を図るとともに、清水小学校児童との交流授業や昼食交流にて異世代間交流を行い、相互への思いやりを深めるものであるが、コロナ禍で休止期間があり、再開後も短時間の開催となった。児童との交流は少しずつ実施できるようになった。

- 対象者 市内在住の介護保険サービスを利用していない概ね65歳以上の方
- 開催日時 月・木曜日の9時30分～11時30分（祝祭日・年末年始を除く）
※ただし、4・5月は休止、年間74回開催
- 内容 健康チェック、ストレッチ体操、レクリエーション・ゲーム、脳トレ、創作活動、俳句、絵手紙、健康講和 ※休止期間中は電話での安否確認や脳トレ資料等送付
- 運営スタッフ 活動援助員(1人)、看護師(1人)、介助員(3人)、協力会員(22人)
※介助員は協力会員の中から選出され交代制。飲食中止、短時間開催のため協力会員は1名または内容により2名の活動。
- 登録利用者数 13人（男性2人、女性11人）
- 平均年齢 82.9歳
- 延利用者数 845人（1回の平均利用者数 11.4人）



運動会（室内）



1年生へスマイルストラップ プレゼント



ゲーム大会（視察の大学生と）

地域交流事業「交流授業」 清水小学校児童との交流授業

小学校との複合施設であるという特徴を生かし、児童と「友遊しみず」の利用者や地区社協関係者、地域住民、しみずサポートボランティア(大学生等)との異世代間交流を毎年実施している。

昨年度に続き、今年度もコロナ禍のため、各学年の年間指導計画に基づく話し合いの後、随時調整を図りながら感染対策を万全にとって短時間の交流を実施した。

- 交流回数 授業・休憩時間(26回)、学校行事(0回)、昼食(0回)・昼休み時間(156回)
- 延べ人数 1,950人(児童 1,856人、教職員 94人)
- 内 容
- 1年生:コロナ禍で参加できない音楽会の演奏曲を事前に披露
 - 2年生:児童の町探検クイズやダンスの発表、一緒にダンスで交流
 - 3年生:地域の水引細工の名人さんが講師となりポチ袋を作成
 - 4年生:児童が学んだ防災について、作製したかるた等で友遊しみず利用者と交流
 - 5年生:高齢者疑似体験の各コーナーで友遊しみず利用者・地区社協が協力
 - 6年生:参加できなかった運動会の演目を利用者に披露、お礼に貼り絵を贈る



1年生「音楽会事前演奏会」



2年生「きらきら交流会」



3年生「清水の名人に学ぼう
(水引のポチ袋)」



4年生「防災教室交流会」



5年生「やさしい町清水
高齢者の疑似体験」



6年生「よさこいソーラン発表」

地域交流事業「地域交流イベント」 清水小ふれあいバザーへの参加【中止】

児童やその家族、地域住民との交流イベントに参加協力し、福祉観の醸成と地域コミュニティの育成を図ることを目的に、清水小学校PTA主催にて開催するものであるが、長引くコロナ禍のため中止となった。

●シニアライフ講座【9回講座】

高齢者の生活に役立つ福祉や生活の情報などを提供することにより、高齢者やその家族が安心して暮らせる環境づくりを目的に実施した。コロナ禍で、定員を半減し9名にての実施となったが、出席者は回を重ねるごとに、学習内容を始め、様々な分野に関心を持って臨まれていた。

第8回「人生の振り返り」で昨年度から取り入れたラジオ収録の形で各人の人生を思い起こさせ、最終講のエンディングノートの作成へとつながる流れができたことは、とてもよい成果となった。

アンケートでは、たくさんの知識が得られ、すべての内容がよかったと評価をいただいた。

□講 師 各種専門機関、専門家、NPO活動者など

□内 容

- ①オリエンテーション
- ②住み慣れた地域ですっと暮らしたい
- ③介護保険で未来をデザイン
- ④知って安心！成年後見制度
- ⑤財産管理と遺言のいろは
- ⑥みんなで学ぼう認知症
- ⑦介護者のストレスケア
- ⑧終活1 ～人生の振り返り～
- ⑨終活2 ～エンディングノートの作り方～



シニアライフ講座 第8回
(終活1 人生の振り返り)

□対 象 者 市内在住の60歳以上の方や講座テーマに関心があり、全日程受講可能な方

□受講者数 9人(男性2人・女性7人)

□延受講者数 73人

●終活のススメ講座【4回講座】

人生の終焉を自分らしく迎えるため、自身の経験や思いを形にして、家族など次世代の人たちに伝えていくことを目的に、定員を15名から9名に縮小して実施した。昨年度、新型コロナウイルス感染拡大のため開講前日に中止となったため、受講決定者のうち今年度受講希望者は優先とした。最近では、比較的若いうちから終活に関心をもつ傾向があり平均年齢は70歳、また、約半数が男性となった。各回、みなさん積極的に質問をする等、熱心に取り組んでいた。

□講 師 一般社団法人終活サポート協会など

□内 容

- ①人生を振り返ろう
- ②「ことづて帖」をつくろう
- ③もっと知りたい終活のこと
- ④私らしい終活のために

□対 象 者 市内在住の60歳以上の方や講座のテーマに関心があり、全日程受講可能な方

□受講者数 9人(男性4人・女性5人)

□延受講者数 35人



終活のススメ講座 第1回
(オリエンテーション)

しみずサポートボランティアの活動

若者のボランティアが児童に寄り添い、児童と「しみず」を利用する高齢者との橋渡しの役割を担っているサポートボランティアであるが、高校生メンバーの活躍等活動に活気がでていた。

昼休みの見守り活動では、学生が授業の空きコマに訪れ、良きお姉さん・お兄さんとなっていた。また、5年生が清水の町をもっとやさしい町にと取り組んでいる「やさしさボランティアリーダー」の活動では、活動が顕著な児童に、手作りカードをプレゼントし、ボランティア活動の啓発に取り組んだ。

有志の活動ではあるが、「コミュニティ花壇」に季節の花を植え、春の「しみず祭」に向けテーマを決めてチューリップの球根を100球植えた。

□登録者数 12人（高校生2人、大学生9人、社会人1人）

□活動日数 109日

□延べ活動者数 317人



昼休みの交流



やさしさボランティアリーダーへカードのプレゼント

ふれあい教室（清水地区社会福祉協議会主催）

清水地区及び近隣在住の60歳以上の方を対象に、「コーラス」「太極拳」「絵手紙」「茶道」「英会話」「書道」「フォークダンス」の7教室が、技能向上だけでなく、ふれあいや親睦を深めながら、地域住民同士の助け合いにもつながる活動をしている。ただし、年度当初～約半年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「コーラス」・「茶道」・「フォークダンス」の活動は中止となった。なお、児童との交流授業も徐々に可能となり、清水小3年生対象の「清水の名人に学ぼう」では、「絵手紙」と「太極拳」の講師・教室生が「名人さん」となって体験学習に協力し、児童との交流を楽しんだ。

□開催回数 148回

□延べ人数 1,696人（男性 152人、女性 1,544人）



英会話教室の風景



清水の名人に学ぼう
（太極拳教室）



清水の名人に学ぼう
（絵手紙教室）

清水地区社会福祉協議会との連携

当センターのコミュニティルームには、清水地区社会福祉協議会の事務局が設置されており、日常業務やミーティング、会議開催など、地域福祉活動の拠点となっている。

また、当センターのコーディネートにより、清水小5年生の総合的な学習の時間「やさしい町 清水」での福祉体験学習には、地区社協の執行役員が継続して協力をした。特に今年度は、新たな試みとして体験を通しての感想等を俳句で表現することに取り組み、地区の方々も児童とともに作句し、句集を配布等する授業に参加した。

6年生の卒業リボンの製作では、昨年度に続き、協力会員が水引やリボン作りに積極的な協力があり、仕上げの授業には執行役員・協力会員も参加して完成した。卒業式にはこの「世界に一つだけの卒業リボン」が児童の旅立ちを彩った。

なお、当センターのコミュニティ花壇は、地区社協関係者の募金により、花苗や球根が多数購入できている。



5年生福祉体験学習「車いす介助体験」



卒業リボンの仕上げ（教室にて）

トーンチャイムボランティアの活動

平成24年に清水地区の協力会員を中心にトーンチャイムボランティアグループ『SKB80 チームK&チームB』が結成され、清水地区社協に承認され、メンバーの入れ替わりはあったが活動は継続している。コロナ禍で市内の施設のデイサービスやサロン等へのボランティアでの訪問演奏活動は再開できていないが、毎月4～5回の練習を行い、当センターで開催している友遊しみず利用者との交流は2回実施できた。また、来年度開催の「ねんりんピック」に出演依頼があったので、1月からはポスター用の写真撮影や曲目選定をはじめ、練習にも熱が入っている。

□参加者 4人

□活動実績 4件／延べ人数 16人
(福祉関係施設 1件、その他 3件)

□練習回数 49回／延べ人数 196人



友遊しみずでの演奏会

松山市地域包括支援センター味酒・清水との連携

当センター1階には、松山市地域包括支援センター味酒・清水があり、健康づくり・介護予防のための講座や研修会等、高齢者へ学習等の機会・情報を提供している。さらに、当センターで実施している地域交流事業「友遊しみず」の新規利用者を紹介いただいたり、利用者やその家族からの介護相談に応じてもらったりしている。また、市社協主催の講座講師として協力をいただくなど、継続して連携を図ることにより、地域福祉の拠点として充実した。

なお、コロナ禍における緊急のケース会議の際は、参加人数によっては包括支援センターの会議室が手狭なため、当センターの会場を利用した。

令和 4 年度 いきがい交流センターしみず 利用者数

事業名	延人数(人)
地域交流事業「友遊しみず」〈休止期間あり〉	845
清水小学校児童との交流事業等(授業 26 件・行事 0 件) ※授業協力及び短時間交流	1,950
地域交流イベント(清水小ふれあいバザー参加)〈中止〉	0
清水小学校児童との昼食時間と昼休みの交流〈昼食交流は中止〉 (昼食交流 0 人、昼休み 1,148 人)	1,148
しみずサポートボランティアの活動(183 件)〈縮小〉	317
シニアライフ講座 9 回〈定員削減〉 終活のススメ講座 4 回〈定員削減〉	108
ふれあい教室〈教室により休止期間の長短あり〉	1,696
トーンチャイムボランティアの活動〈訪問活動はほぼ休止〉	16
清水地区社協会議等	281
清水地区社協役員等による業務	200
清水地区社協教室部会・ちくたく業務等	393
第 20 回しみず祭〈中止〉	0
視察(6 件)、実習(6 件)、取材(2 件)	68
合 計	7, 022

※年度当初は、コロナ禍により活動が中止・休止、行事等も開催はほぼ中止となった。

事業再開となるも、規模の縮小等は継続となった。